

平成8年度第2回日本生物物理学会運営委員会議事録

日時 1995年12月2日(土) 13:30 - 18:00

場所 ホテルオース・プラザ(名古屋)

出席者 宝谷会長、津田副会長、石渡副会長、垣谷、葛西、木下、桐野、郷(信)、郷(通)、豊島、徳永、日比野、美宅、宮本、安永、柳田

報告事項:

1. 第33回年会(札幌)の会計報告

昨年度年会企画の加茂委員から、年会の会計報告(資料1)が提出された。参加者数約1100人、収入合計約989万円、支出合計約762万円(ただし、予稿集は別会計)。収益の内、100万円は北海道地区運営費に充て、学会から年会準備金の50万円とは別に残金約127万円を学会へ送金予定。

宮本委員から「予稿集は、会計に入っているのか」との質問があり、予稿集は別会計となっていることが確認された。現在、予稿集は学会誌の別冊になっており、予稿集の会計は学会誌とは別会計になっている。この扱いに関しては、検討課題である事が郷(信)委員から確認された。津田委員より、12号化後は、学会誌の中の1号として扱うことが指摘された。

2. 賞選考委員会報告

葛西委員から、1995年度は特に賞選考の推薦を行わなかったとの報告があった。

3. 研究成果公開発表(B)の申請(高校生に対する広報活動)

葛西委員より、申請の締切は12月8日であることと、今年は年会が筑波であり、高校が少ないことから、公開発表は年会で行わず、大阪大学でおこなう予定であることが報告された。また、この公開発表(B)の予算は、会場費、資料作成費とPR費にしか使えないことが確認された。

4. 科研費の学術定期刊行物に対する援助の計画調書提出 石渡委員より、年12回

3260部の学会誌、原著論文として予稿集を加えた形で計画調書(資料2)を提出したとの報告があった。葛西委員より、遺伝子学会、生化学会などのように欧文誌があると通りやすいことが指摘された。

5. 生物物理学研連と分子生物学研連の合同研連報告

宝谷会長より、11月20日に、初めて分子生物・生物物理の両研連の合同研連が開かれたことが報告された。同時に、構造生物学のフォーラムが開催された事も報告された。報告事項13及び14が承認され、また、京都の学会の時に合同シンポジウムの開催を目指すことが確認された

6. 三年以上会費未納者の自然退会

宝谷会長より、正会員39人、学生62人を、三年以上会費未納者として除名したとの報告があった。

7. 第三回アジア学術会議後援依頼に賛同

宝谷会長より、伊藤正男氏より平成8年3月25日に行われるアジア学術会議の後援依頼があり、賛同したとの報告があった

8. 日本動物学会の博士研究員制度の拡充に関する要望書(資料3) 丸山工作氏より

日本動物学会の博士研究員制度の拡充に関する要望書が提出された。さらに、宝谷会長より、一万人規模のPD(博士研究員)の拡充を行うという計画があることが報告された。その後の就職の問題や、助手の立場など各種問題を抱えているので、今後の方向を学会として見守る事を確認した

9. アムステルダム大会への若手参加者に対する IUPAB 旅費援助申請の奨励 12月

31日締切で、IUPABの旅費援助の申請ができることが改めて報告された。郷(信)委員より、若手の方になんばって出すように声をかけるようにとの意見が出た

10. 会誌編集状況の報告

津田委員から、会誌の編集状況(資料4)について報告があった。5号10月号が、構造生物学の特集であることも報告された。36巻1号からリアライズ社に編集が移るが、20本ほどの原稿がまだ吉岡書店に残っており、完成原稿までは吉岡書店が面倒を見ることが確認された。

11. 会誌編集員の選考について(資料5)

津田委員から、編集委員の選考日程の変更(これまでは、4月が最終編集議、7月から新委員、今後は2月が最終編集会議で、4月から新委員)された事が改めて確認された。委員長の方針について、運営委員会で、来年12月に次期委員長を決定する事が確認された。副委員長が次期委員長になるわけではないことも確認された。

12. 米国 Protein Society からの共同学会主催に関する打診についての次田教授への返答

郷（信）委員より、米国 Protein Science からの日米合同開催に関する提案に関して、生物物理学会としては、関連学会を委員とする蛋白質研究連絡協議会のようなものを作って、そこで対応を議論するのはいかがでしょうかという提案を、次田教授に返答した(資料 6)との報告があった。

1 3. 構造生物学振興小委員会報告

郷（信）委員より、生物物理学研連及び分子生物学研連で、学術会議第 4 部、構造生物学振興小委員会の内容の検討を行ったとの報告があった。振興小委員会としては科研費の構造生物学向けの特 別枠を作ることは断念した。

1 4. 高エネルギー物理学研究所機構改革に関する要望書(郷案) 郷（信）委員より、高エネルギー研究所機構改革に伴う要望書案(資料 7)が提案された。どのような体制になるかはまだ未定であるが、使用する側からの要求を出して おくことが大切であるとの観点から、案は了承された

議題:

1. 平成 7 年度の旧運営委員会の議事録承認

郷（信）委員より、議事録(資料 8)が提出され、承認された

2. 新旧合同運営委員会の議事録承認

郷（信）委員より、議事録(資料 8)が提出され、承認された

3. 平成 8 年度第一回運営委員会議事録承認

宝谷会長より、議事録(資料 9)が提出され、承認された

4. 広告獲得の現状と問題点(資料 1 3、1 4)

木下委員より、1 5 0 人に広告獲得依頼をだし、1 0 %の人の御助力により現時点で 3 0 社が確定した(資料 1 3)との報告があった。生物物理は、レスポンスがないので、広告主にとってメリットが少ない。レスポンスが大切であるので、会誌に広告製品資料請求用紙(資料 1 4)をつけることが提案された。柳田委員から、そのようなものを付けても直接電話の方が早いのではないかとの意見が出たが、それでも、極力、広告製品資料請求用紙を用いて広告主にアピールをして欲しいとのことで、この提案は了承された。

5. 会誌発行に伴う費用について

5-1 リアライズ社(資料10)

石渡委員より、会誌出版に関する経費の見積もりと現状について説明(資料10)があった。会誌を12回にすると、現状では赤字になってしまう。また、郷(信)委員より、広告収入が増えると帳簿上赤字になってしまうので検討する必要があるとの提案があった。

5-2 表紙・デザイン料(資料11)

美宅委員より、表紙デザインについては、リアライズ社もちでなく特別費用(40万円)がかかっているとの報告があった。表紙のモノクロ版・目次の見開き・最後のページのテキストの内容について修正し、確認した。

5-3 編集用の特別費用

美宅委員より、編集用の特別費用をどの様に扱うかについて考えて欲しいとの提案があった。郷(信)委員より、200号の座談会でもずいぶんと費用がかかったとの意見が出た。桐野委員より、予算の枠内で行うべきであるとの意見が出た。美宅委員より、特別費用の枠の必要性の意見が出た。さらに、会誌の費用の節約について、津田委員より、現在はどの号に掲載するかを決めないで、原稿を集めているので、ページ数に関してはきちんと守らせているとの説明があった。

6. 協賛の場合に全プログラムを学会公告に掲載する基準

宝谷会長より、各種会議・シンポジウムの全プログラムを学会公告に掲載する基準について質問があった。郷委員より、主催していれば載せているとの説明があった。主催のクライテリアは運営委員会で決定する事が確認された。共催にもかわらず、NMR 討論会は掲載されているが、葛西委員より、大西会長の時に NMR 討論会とタンパク質構造討論会だけは載せることに決めたとの説明があった。これからは共催のプログラム掲載は出来るだけ減らすことが確認された。また、これまでは春の物理学会のプログラムは会誌に間に合わないとの判断があったが、12月18日にプログラム委員会があり、雑誌に間に合うので掲載することにした。また、これらのプログラム及び協賛、後援等の各種会議・シンポジウムのプログラムは WWW の Home Page に載せることになった。

7. 日本生理学会英文誌 JJP に Biophysics の section を発足させる件

葛西委員より、名古屋大学・曾我部氏より、日本生理学会の欧文誌編集長である金子教授から生理学会の欧文誌に Biophysics のセクションを発足させたいとの主旨の提案があったとの手紙(資料12)をいただいたと報告があった。欧文誌の問題は懸案事項であるし、分子生物学会は欧文誌を出すという話もあるので曾

我部氏に窓口になっていただいて前向きに検討することとなった。ただし、Journal 名の変更に関しては、新たに作るときに問題となる可能性があるので検討が必要であることが確認された。Journal 名の変更に関しては、こちらから要求はしないことになった。

8. ネットワーク関係(資料 1 5)

8-1 電子メールの活用について

美宅委員より、リアライズ社をメールのセンターとするのは現実的でなく、アカデミックな機関を使ってメーリングリストを作り、活用すると説明があった。その方向で検討される。

8-2 WWW のホームページについて

美宅委員より、学術情報センターには申請済み(資料 1 6)であり、ホームページの開設を年始を目標に行うとの説明があった。安永委員も手伝うことになった。

8-3 電子図書館について

学術情報センターが生物物理学会誌を過去 5 年間分 2 セット買い取り、センターの責任でデータベース化することになった。

9. 年会のシンポジウム企画(資料 1 7、資料 1 8)

宮本委員より、第 3 4 回年会について、決定事項(資料 1 7)が報告された。日程は都臨床研のシンポジウム(11 月 5-7 日)に対して、11 月 7-9 日となり、最小限の重なりですむことになった。以下の具体的な案は資料 1 7 参照

○シンポジウム企画

郷(信)委員よりシンポジウム企画について報告があった。これまでは、シンポジウム企画は現地に任せていたが、今回から運営委員会が一部責任を持つことになった。その為の運営委員からなるワーキンググループとして以下の委員が中心となる事になった。

郷(信)、石渡、津田、宮本、委員長は郷(信)とした。

○申し込み時

キーワードを忘れないようにする。

○会員増との関連

会員増とリンクさせるために、ポスター及びリーフレットを作成することを提案した。

○参加費の問題

電子メール申し込みの場合に、振込銀行と年月日を書き込むことにする

1 0. 東アジア国際会議の委員決定

郷（信）委員より、97年5月に東アジア国際会議が北京で開かれることが報告された。組織について中国側から提案があり、97年に向けて組織委員会を起す。方針の内容については、この方向でよいことが確認された。日本側の委員は以下の通り

Conference Co-chairperson :郷（信）

Program Co-chairperson :宝谷

Organizing :京極、津田

Program 委員会 :豊島、葛西

Invited Speaker については、1996年夏までに決定する必要があることが確認された。また、中国での滞在費は、今回全てを中国側で持つのは無理であることが確認された

1 1. アジア学術交流促進事業への協力

寄付はしないが、協力はする事が確認された。

1 2. アメリカ及びオーストラリア生物物理学会との交流

柳田委員より、1997年にハワイのマウイ島でオーストラリアとのアクチンに関する会合を持つ話が進んでいることが説明された。アメリカとの間は、情報交換がしたいとの主旨が伝わっているが、実際の所、どういう形の交流を望んでいるのかについて柳田委員が検討していくことになった。宝谷会長より、アクチンの分野だけなら柳田委員に一任し、学会がサポートする形を取ることを明言した。

1 3. 会員増のための方策

垣谷委員より、会員増のための方策についての議題が提出された。会員増のために以下のような提案が出た。

○15とも関連して、年会に発表をする新入会の人自動引き落としについて、9月に申しこんでも1月から自動引き落としになる。新入会の方は、且、基本的に自動引き落としにし、振り込みも可能とする。

○ポスターの作成を行う。送付先名簿については若手の使用している名簿も用いる。

○シンポジウムのブリーフノートがあるのでそれを関連している研究所等に送付する。

○秋の物理学会では、生体物理の講演数が4-5件である。他の分科の中にもかなり生体物理的な内容の講演も多い。これらの人たちに生物物理学会に入会してもらうのも良いのではないか。

○徳永委員より、秋の物理学会は、講演会を行うようにするとの提案があった。この意見に関連して、郷（信）委員より、本学会が物理学会の中で好意的に位置づけられているので、この提案は積極的に考えるとの表明。

1 4.分野別専門委員の確定(資料 1 9)

郷（信）委員より、分野別専門委員を確定したとの報告があった。

1 5.年会参加申し込み時の会員状況の確認

以下のような提案が出た。

○現会員は、電子メールに会員番号をつける。

○4月の段階で、発表を予定している人はできるだけ早く会員手続きを行うように促す。

○年会申し込み時に、手続き中の人は会費の振込用紙をつけることにする。

1 6.次回の運営委員会の日時決定

4月6日、名古屋に於いて第3回運営委員会を開催することが決まった。

会場については未定。